

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	九州大学	整理番号	J03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) くぼ ちはる 氏名・職名 久保 千春(九州大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) たかまつ ひろし 氏名・職名 高松 洋 (九州大学大学院工学府・学府長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) あだち ちはや 氏名・職名 安達 千波矢 (九州大学大学院工学府物質創造工学専攻・主幹教授)		
4. 類型	J<複合領域型(物質)>		
5.	プログラム名称	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	
	英語名称	Development of Global Research Leaders in Molecular Systems for Devices and Establishment of an International Education and Research Center	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(工学)、博士(理学)、博士(情報科学)、博士(学術) 付記する名称:分子システムデバイスプログラム		
7. 主要分科	((① 複合化学)) ((② 電気電子工学)) ((③ 経営学)) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	基礎化学、材料化学、物理学、応用物理、機械工学、材料工学、プロセス工学、経済学		
8. 主要細目	((①)) ((②)) ((③)) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、合成化学、高分子化学、機能物質化学、環境関連化学、生物関連化学、機能材料・デバイス、高分子・繊維材料、物性、量子エレクトロニクス、生物物理・化学物理、薄膜・表面界面物性、電子・電気材料工学、システム工学、制御工学、設計工学、経済政策、経営学、材料物性、化学システム工学、システム生命工学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	工学府物質創造工学専攻、工学府化学システム工学専攻、工学府物質プロセス工学専攻、工学府材料物性工学専攻、理学府化学専攻、システム情報科学府電気電子工学専攻、ロボット・ファン/アントレプレナーシップ・センター(QREC)、経済学府産業マネジメント専攻(九州大学ビジネススクール:QBS)		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	University of California, Los Angeles:UCLA(アメリカ)、スタンフォード大学(アメリカ)、Interuniversity Microelectronics Centre:imec(ベルギー)、Okinawa Institute of Science and Technology:OIST、九州大学カリフォルニアオフィス、財団法人 九州先端科学技術研究所(福岡市)		

(機関名:九州大学 類型:複合領域型(物質) プログラム名称:分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成)

14. プログラム担当者の構成 計 63 名

外国人の人数	12 人	[19.0 %]	女性の人数	4 人	[6.3 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [60.3 %]					
プログラム実施大学に属する者			38 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			36 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				25 人	
				15 人	

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 高松 洋	タカマツ ヒロシ		大学院工学府・教授/学府長	熱工学・生体熱工学 工学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 安達 千波矢	アダチ チハヤ		大学院工学府・物質創造工学専攻・主幹教授	有機半導体デバイス物理 工学博士	プログラムコーディネーター、分子システムデバイス 国際リーダー教育センター長、統括
山田 淳	ヤマダ スナオ		大学院工学府・材料物性工学専攻・教授	応用光化学、機能物質化 学、プラスモニクス 工学博士	プログラム副コーディネーター(統括)、分子シス テムデバイス国際リーダー教育センター運営委員
久枝 良雄	ヒサエダ ヨシオ		大学院工学府・物質創造工学専攻・教授	生物無機化学 工学博士	プログラム副コーディネーター、分子システムデバイス国際リー ダー教育センター運営委員
古田 弘幸	フルタ ヒロユキ		大学院工学府・物質創造工学専攻・教授	有機機能分子化学 理学博士	プログラム副コーディネーター、分子システムデバイス国際リー ダー教育センター運営委員
石原 達己	イシハラ タツミ		大学院工学府・材料物性工学専攻・主幹教授	固体電気化学 工学博士	産学連携教育(知的財産権の基礎と実践 教育)
今坂 藤太郎	イマサカ トウタロウ		大学院工学府・化学システム工学専攻・主幹教 授	分析化学 工学博士	国際連携、インターンシップ
今任 稔彦	イマトウ トシヒコ		大学院工学府・化学システム工学専攻・教授	分析化学 工学博士	産学連携
小江 誠司	オゴウ セイジ		大学院工学府・物質創造工学専攻・主幹教授	錯体化学 博士(理学)	産学連携
金子 賢治	カネコ ケンジ		大学院工学府・材料物性工学専攻・教授	材料組織解析学 Ph.D.	国際連携
神谷 典穂	カミヤ ノリホ		大学院工学府・化学システム工学専攻・教授	生物工学 博士(工学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営 委員、教務統括、グループリサーチプロポーザル
岸田 昌浩	キシダ マサヒロ		大学院工学府・物質プロセス工学専攻・教授	触媒反応工学 博士(工学)	入試、広報
君塚 信夫	キミヅカ ノブオ		大学院工学府・物質創造工学専攻・主幹教授	分子組織化学 工学博士	国際連携
後藤 雅宏	ゴトウ マサヒロ		大学院工学府・化学システム工学専攻・主幹教 授	生物化学工学 工学博士	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営 委員、教務
田中 敬二	タナカ ケイジ		大学院工学府・材料物性工学専攻・教授	高分子物性・ 高分子材料学 博士(工学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、産学連 携、男女共同参画リーダー育成
中嶋 直敏	ナカシマ ナオシ		大学院工学府・化学システム工学専攻・教授	ナノ材料分子化学 工学博士	国内連携、研究企画発表
三浦 佳子	ミウラ ヨシコ		大学院工学府・化学システム工学専攻・教授	高分子化学 博士(工学)	男女共同参画リーダー育成、研究企画発 表
片山 佳樹	カタヤマ ヨシキ		大学院工学府・材料物性工学専攻・教授	バイオテクノロジー 工学博士	産学連携教育(知的財産権の基礎と実践 教育)
榎本 尚也	エノモト ナオヤ		大学院工学府・物質創造工学専攻・准教授	無機材料化学、 音響化学プロセス 博士(工学)	入試、奨励金、広報
安中 雅彦	アンナカ マサヒコ		大学院理学府・化学専攻・教授	高分子物理化学 理学博士	国際リーダーの育成(実践英語教育)
大場 正昭	オオバ マサアキ		大学院理学府・化学専攻・教授	錯体化学 博士(理学)	研究企画発表、総合試験
桑野 良一	クワノ リョウイチ		大学院理学府・化学専攻・教授	有機化学 博士(工学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、教務、 グループリサーチプロポーザル
酒井 健	サカイ ケン		大学院理学府・化学専攻・教授	錯体化学、光触媒化学 理学博士	研究企画発表、総合試験
徳永 信	トクナガ マコト		大学院理学府・化学専攻・教授	有機化学、触媒化学 博士(理学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター副セ ンター長
木戸秋 悟	キドアキ サトル		先端物質化学研究所・教授	医用生物物理学 博士(学術)	研究企画発表、総合試験

(機関名:九州大学 類型:複合領域型(物質)プログラム名称:分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
高原 淳	タカハラ アツシ		先端物質化学研究所・主幹教授	高分子化学 工学博士	研究企画発表、総合試験
玉田 薫	タマダ カオル		先端物質化学研究所・教授	ナノ界面物性 博士(理学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、男女共同参画リーダー育成、研究企画発表、総合試験
吉澤 一成	ヨシザワ カズナリ		先端物質化学研究所・教授	量子化学 博士(工学)	国際リーダーの育成(実践英語教育)
興 雄司	オキ ユウジ		大学院システム情報科学府・電気電子工学専攻・教授	レーザー工学 博士(工学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、教務、グループリサーチプロポーザル、デバイス教育
豎 直也	タテ ナオヤ		大学院システム情報科学府・電気電子工学専攻・准教授	応用光学・量子光工学 博士(情報科学)	デバイス教育
谷口 博文	タニグチ ヒロフミ		産学連携センター(リエゾン部門)・教授/ ロバート・ファン・アントレプレナーシップ(GRE C)・センター長	公共政策、産学連携 法学士	リーダーシップ・マネジメント教育
高田 仁	タカタ メグミ		大学院経済学府・産業マネジメント専攻・教授	技術商業化/産学連携/ アントレプレナーシップ 修士(工学)	リーダーシップ・マネジメント教育
佐々木 ひろみ	ササキ ヒロミ		学術研究・産学官連携本部・コーディネーター	知的財産権/ 国際産学連携/国際法務 法学士	知的財産教育
古川 勝彦	フルカワ カツヒコ		産学連携センター・教授 学術研究・産学官連携本部・副本部長	産学官連携 博士(理学)	知的財産教育
松尾 正人	マツオ マサト		九州大学海外コーディネーター九州大学カリフォルニアオ フィス, Inc. 社長	異文化交流、 新事業開発マネジメント 工学博士	スーパーリーダー育成のコア教育
川口 大輔	カワグチ ダイスケ		分子システムデバイス国際リーダー教育セン ター・准教授	高分子物性 博士(工学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営 委員、教務、グループリサーチプロポーザル
牧野 恵美	マキノ エミ		分子システムデバイス国際リーダー教育セン ター・准教授	ビジネスマネジメント Ph.D.	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、リー ダーシップ・マネジメント教育、グループリサーチプロポーザル
財部 邦英	タカラベ クニヒデ		九州大学非常勤講師・客員教授	微粒子科学、有機光 エレクトロニクス 工学博士	一流学・異文化交流学
水野 潤	ミズノ ジュン		早稲田大学 ナノ理工学研究機構・准教授	ナノ・マイクロ理工学 博士(工学)	デバイス教育、スーパーリーダー育成の コア教育
飯田 和利	イダ カズトシ		株式会社エア・リキード・ラボラトリーズ・代 表取締役社長	外資マネジメント教育 工学博士	国際産学連携教育
萬ヶ谷 康弘	マガタニ ヤスヒロ		日本化薬株式会社・研究開発本部・研究企画部 長	触媒化学 工学修士	産学連携教育
梶原 一郎	カジワラ イテロウ		JSR株式会社 研究開発部・参事	研究管理 理学修士	産学連携教育
武内 勇	タケウチ イサム		株式会社ラ・ルバンシュ・代表取締役	環境技術 コーディネーター 経営学士	スーパーリーダー育成のコア教育
山下 秀樹	ヤマシタ ヒデキ		BASFジャパン株式会社・研究開発室マネー ジャー	高分子化学 修士(工学)	国際産学連携教育
青木 伸一	アオキ シンイチ		三井化学株式会社・R&D管理部・部長	研究開発管理・人事 修士(工学)	産学連携教育
林 省治	ハヤシ セイジ		三菱レイヨン株式会社 研究開発本部	高分子物性 工学博士	産学連携教育、コース履修生選抜審査
平石 佳之	ヒライシ ヨシユキ		日立アロカメディカル株式会社・ライフサイエ ンス研究二課・課長	遺伝子工学 医学博士	産学連携教育
安田 傑	ヤスダ スグル		ユミコアジャパン株式会社・セールス&マーケ ティング マネージャー	冶金学・光学 学士	国際産学連携教育
宮地 克明	ミヤジ カツアキ		日産化学工業株式会社・取締役新事業企画部長	新材料の企画開発 理学修士	ビジネスマネジメント論
八尋 正幸	ヤヒロ マサユキ		財団法人九州先端科学技術研究所 有機光エレクト ロニクス研究特別室・室長	有機半導体 光電子デバイス 博士(工学)	産学官連携教育
脇本 健夫	ワキモト タケオ		メルク株式会社パフォーマンスマテリアルズ先端技術事業本部 有機ELビ ジネスディベロップメント(リージョナルファンクション)	有機EL/有機TFET/ 有機薄膜太陽電池 工学博士	国際産学連携教育
Alan Sellinger	アラン セリンジャー		Colorado School of Mines, Associate Professor	Organic/Hybrid Semiconductor Synthesis Ph. D.	国際共同連携教育
Yong-Rok Kim	ヨンロク キム		Yonsei University, Professor	Photon Applied Functional Nanocomposites Ph. D.	国際共同連携教育
Paul Heremans	ポール ヘルマンズ		imec, Fellow and K.U.Leuven, Professor	Semiconductor Devices Ph. D.	国際共同連携教育、サテライトラボサ ポート
Sergei V. Dzyuba	サーゲイ ブイ ジュウバ		Texas Christian University,	Bioorganic & Supramolecular Chemistry Ph. D.	国際共同連携教育

(機関名:九州大学 類型:複合領域型(物質) プログラム名称:分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有・無)
プログラム募集定員数(実数)		人	21人	15人	15人
① 応募学生数		人	19人	17人	15人
	うち留学生数	人	3人	7人	4人
	うち自大学出身者数	0人(0人)	14人(0人)	11人(2人)	10人(1人)
	うち他大学出身者数	0人(0人)	5人(3人)	6人(5人)	5人(3人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	うち女性数	0人(0人)	2人(1人)	4人(3人)	4人(1人)
② 合格者数		人	19人	17人	15人
	うち留学生数	人	3人	7人	4人
	うち自大学出身者数	0人(0人)	14人(0人)	11人(2人)	10人(1人)
	うち他大学出身者数	0人(0人)	5人(3人)	6人(5人)	5人(3人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	うち女性数	0人(0人)	2人(1人)	4人(3人)	4人(1人)
③ ②のうち受講学生数		人	17人	17人	15人
	うち留学生数	人	3人	7人	4人
	うち自大学出身者数	0人(0人)	12人(0人)	11人(2人)	10人(1人)
	うち他大学出身者数	0人(0人)	5人(3人)	6人(5人)	5人(3人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	うち女性数	0人(0人)	2人(1人)	4人(3人)	4人(1人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)		0.00倍	1.00倍	1.00倍	1.00倍
充足率(合格者数/募集定員)		0.00%	90.00%	113.00%	100.00%

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度						
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計								
平成24年度選抜	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち留学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち自大学出身者数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち他大学出身者数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち社会人学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち女性数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
平成25年度選抜							17	-	-	-	-	17	-	16	-	-	-	16	-	-	16	-	-	16	-	-	-	-	-			
うち留学生数							3	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	3	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-			
うち自大学出身者数							12	-	-	-	-	12	-	11	-	-	-	11	-	-	11	-	-	11	-	-	-	-	-			
うち他大学出身者数							5	-	-	-	-	5	-	5	-	-	-	5	-	-	5	-	-	5	-	-	-	-	-			
うち社会人学生数							0	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-			
うち女性数							2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-			
平成26年度選抜													17	-	-	-	-	17	-	17	-	-	-	17	-	-	-	-	-			
うち留学生数													7	-	-	-	-	7	-	7	-	-	-	7	-	-	-	-	-			
うち自大学出身者数													11	-	-	-	-	11	-	11	-	-	-	11	-	-	-	-	-			
うち他大学出身者数													6	-	-	-	-	6	-	6	-	-	-	6	-	-	-	-	-			
うち社会人学生数													0	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-			
うち女性数													4	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-			
平成27年度選抜																			15	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-			
うち留学生数																			4	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-			
うち自大学出身者数																			10	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-			
うち他大学出身者数																			5	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-			
うち社会人学生数																			0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-			
うち女性数																			4	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-			
計	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	17	17	16	0	0	0	33	15	17	16	0	0	48								
修了者数	0						0						0						0													
就職者数	0						0						0																			
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0						122						74						40													

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

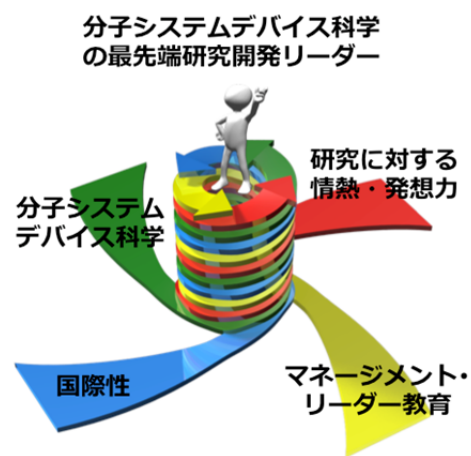
リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】(最先端分子系材料が次世代産業を牽引、そしてスーパーリーダーの必要性) 本プログラムでは、最先端分子システムデバイス科学の構築により、他の追随を許さない次世代の産業コアの形成に資するため、産官学が一体となった教育研究チームを形成し、高度な最先端分子系材料科学の研究を自ら推進でき、さらに、幅広い科学技術に対する俯瞰力を兼ね備え、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成する。そして、高度な研究開発の専門性の深化に加え、研究マネジメント、知的財産権、経営政策、国際戦略等に対しても鳥瞰できる人材の輩出を目指す。科学技術の研究は、高い論理的思考と考察力を求められることで閉じた思考に陥りやすいが、人間性が高く、リーダーとなっている人は、情熱と理性の調和を保ち、小さくまとまらず、チャレンジを忘れない。本教育プログラムでは、“**分子システムデバイス科学**”をコアに、研究者としての科学的なポテンシャルを高めながら、研究開発へのチャレンジ精神、俯瞰力をもって国際的に活躍できるスーパーリーダーの育成を目指す。“最先端分子システムデバイス科学”、“研究に対する情熱・発想力”、“研究マネジメント力”、“国際性”を身につけることで、基礎研究から出口を見据えた応用研究までの一貫した研究開発のスーパーリーダーを育成する。

【特色】(産官学連携スタッフによる教育プログラムの概要) 1、2年次において、大学教員、国内外の民間企業の複数教員の指導によるチャレンジングな最先端研究活動を基礎に、基礎力の涵養と同時に複数の専門知識を習得させる。また、所属研究室の異なる学生を3名のグループに分け、彼らが自由に議論できる専用オフィスを準備し、コミュニケーションによる相乗効果を体感できる演習講義を行うことで、「**議論による発想力**」、「**考え抜く力**」、「**決断力**」、「**諦めない意志**」が研究成果の創出につながることを体験し、各自の個性と気質を醸成する。また、連携企業への国内インターンシップを通して、研究者としての萌芽期に企業の現場を知る機会を設ける。3年次には九大カリフォルニアオフィスでの英語研修とスキルセミナーを実施した後、一年間、UCLA、スタンフォード大、imec (Interuniversity Microelectronics Center)、OIST (沖縄国際科学技術大学院大学)等の海外研究機関での共同研究を実施し、欧米流の研究推進手法を体得する。4、5年次は、伊都キャンパスに隣接する伊都サイエンスパーク内の福岡市産学連携交流センター (FiaS) に**オープンイノベーションラボ**を準備し、実践的な応用展開を視野に入れた少人数グループによるテーマ提案 (**グループリサーチプロポーザル ; GRP**)を行い、海外を含めた民間企業研究者と共同で研究開発活動にあたる。ここでは、異分野の研究者を集結させ、徹底した議論から新しい研究展開を具体化させ、民間企業での即戦力としての研究実践能力の育成と研究戦略マインドを醸成する。また、九大アントレプレナーシップ・センター(QREC) /九大ビジネススクール(QBS)と連携し、研究開発リーダーとして必要となる知的財産権、経営と会計に関する基礎知識とマネジメント論、リーダーシップ論を学ぶ。このように、九州大学伊都キャンパス、海外研究機関での研究活動、伊都サイエンスパークの3拠点において研鑽を積むことで、基礎サイエンスの視点、国際的な視点、産業界の視点から研究開発を俯瞰できるトップリーダーの育成を行う。

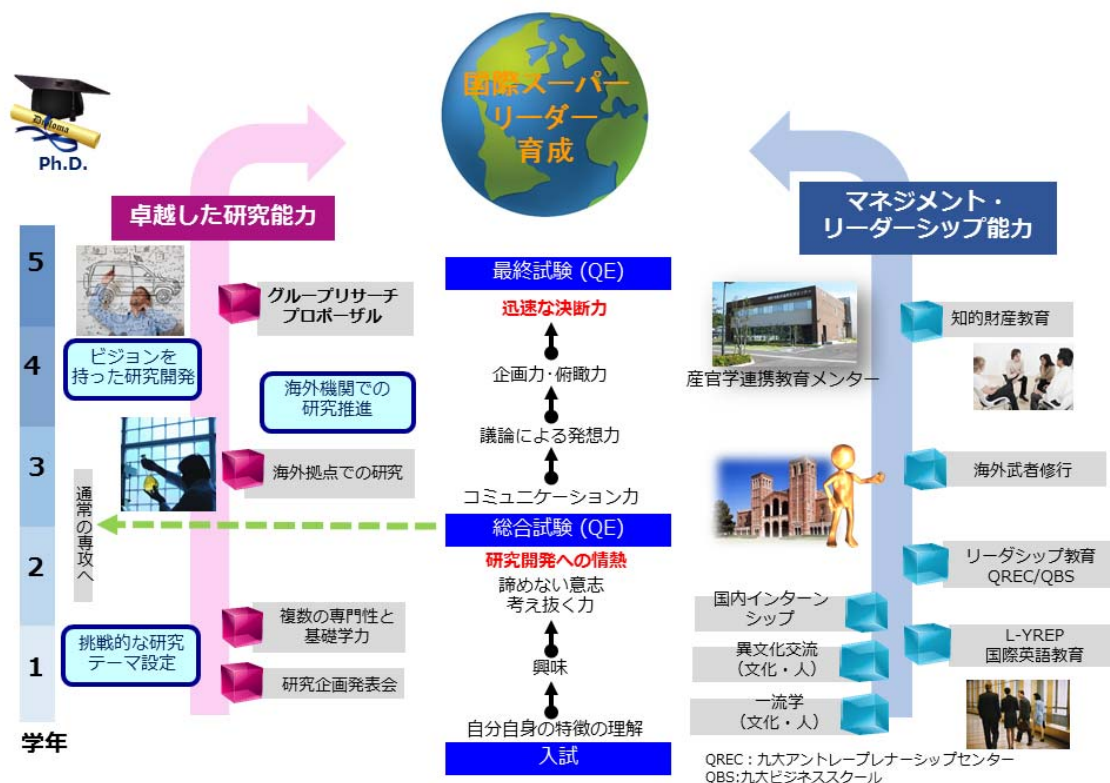
【優位性】(優れた研究・教育実績) 九大工学府応用化学系を核とする本拠点は、これまで研究 COE (岩村・新海)、教育 COE (久枝)、21世紀 COE (新海)、グローバル COE (君塚)と全ての COE を獲得し、“分子集積化学”の世界的拠点形成に至っている。21世紀 COE のアウトプットとして設立した未来化学創造センター (CFC) は、上述の FiaS での強力な産学官連携活動を通して、既にいくつかの基礎研究シーズの実用化に成功している。さらに、グローバル COE で培われた国際教育研究基盤は、分子システム科学センター (CSM) にその機能を移行して研究活動の更なる展開を図っている。また、本プログラムコーディネーターの安達は、最先端研究開発支援プログラム (FIRST) において国内 30 拠点の一つとして認可を受け、最先端有機光エレクトロニクス研究センター (OPERA) 及び有機光エレクトロニクス実用化開発センター (i-OPERA) を立ち上げ、有機集積デバイスに関する基礎から実用化までの包括的な研究開発を産学官連携で実施している。以上の様に、本拠点は、“分子集積科学”に関する高い教育研究実績を、実社会に役立つ“分子集積デバイス”の研究開発を通じたリーダー育成へと展開する本プログラムの実行に十分な実績と基盤を有する。



学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

分子システムデバイス科学 — 教育プログラム (5年一貫コース)



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	九州大学	整理番号	J03
プログラム名称	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成		
プログラム責任者	高松 洋	プログラム コーディネーター	安達 千波矢

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、当初からの懸案である「分子システムデバイス科学」の内容の明確化が図られつつあることは評価できる。またこの点も含め、有効と思われる様々な取組に挑戦し、その成果や課題、学生からの要望に対して迅速に対応していることについても評価できる。ただし、所属研究室での指導と本プログラムでの指導が二重負担となっていると考える学生や、所属研究室での専門的研究で業績を上げられるかを不安に思っている学生が一定の割合で存在しており、本プログラムが過度な負担になっていないかを継続的に確認する必要がある。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、1期生が成長していることや、2期生以降の学生が本プログラムに対する目的意識をしっかりと持ち、目標を定めて積極的に取り組んでいる様子などからも十分期待できる。またグループリサーチプロポーザル（GRP）というグループ学習も特徴的であり、評価できる。一方で、5年間固定したメンバーによってGRPを実施することについては、リーダー育成の観点から見ると、多くのグループを経験することによりグループ内の様々な関係性、役割を経験できること、学生の研究に対する興味に変化することなどを考えると、注意が必要である。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、プログラム担当者が本プログラムに対し非常に大きなエフォートをかけており、また参画企業によるインターンシップの受入、短期・中期の海外留学制度などが整備されており、評価できる。

優秀な学生の獲得については、他大学出身の学生が約3分の1いること、また2期生以降の学生の意識が当初から高く、募集時の意識付けが出来ていたことは評価できる。一方で、指導教員との密接な相談の結果に基づき優秀な学生のみを受験させているため、これまで応募者数と合格者数が同一となっているが、選考基準を明確にした上でよりオープンな受入方式をとり、学生の多様化を図るよう改善が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、研究企画発表、分子システムデバイス演習（LP総合試験）、海外研究機関での研究、新しい発想・アイデアに基づいたテーマ設定なども含め、厳正な学位論文の審査体制となっており、評価できる。

事業の定着・発展については、企業連携による海外留学の支援など、リーディングプログラムの定着、展開を大学として考えており、評価できる。